

平成 24 年 7 月 8 日（日）施行

## 第 168 回 全経簿記能力検定試験 2 級 商業簿記 解説

### 第 1 問

1. 未着品 ¥300,000 につき、荷為替手形 ¥240,000 を引き受けた。
2. 前期末に以下のとおり見越し計上している。  

(借) 未 収 利 息	25,000	(貸) 受 取 利 息	25,000
-------------	--------	-------------	--------

 これを当期首に再振替。
3. 当期純利益は繰越利益剰余金（純資産）に振り替える。
4. 中間納付をしたときは、仮払法人税（資産）として処理する。
5. 手形代金 ¥250,000 と、償還請求に関する諸費用 ¥1,000 をすべて不渡手形（資産）で処理する。
6. 完成までに支払っていた ¥1,000,000 は以下のように処理してある。

(借) 建 設 仮 勘 定	1,000,000	(貸) 現 金 等	1,000,000
---------------	-----------	-----------	-----------

これが完成したので建設仮勘定と未払金 ¥4,000,000 を合わせて建物に振り替える。

7. 1 株あたり ¥30,000 × 200 株 = ¥6,000,000 は資本金に計上しない（資本準備金）。  
 増資なので発行費用 ¥180,000 は株式交付費である。創立費ではないことに注意。

### 第 2 問

#### ① 売上総利益

純売上高 = 当期総売上高 - 当期売上返品高 = ¥5,224,000 - ¥85,000 = ¥5,139,000

純仕入高 = 当期総仕入高 - 当期仕入返品高 = ¥3,442,000 - ¥168,000 = ¥3,274,000

仕 入			損益計算書	
期首商品	1,165,000	売上原価	売上原価	純売上高
純仕入高	3,724,000		原価以外の費用	
		期末商品	1,458,000	売上以外の収益
			当期純利益	188,000

売上原価 = 期首商品 + 純仕入高 - 期末商品

$$= ¥1,165,000 + ¥3,274,000 - ¥1,215,000 = ¥3,224,000$$

売上総利益 = 純売上高 - 売上原価 = ¥5,139,000 - ¥3,224,000 = ¥1,915,000

#### ② 当期純利益

収益 - 費用 = (¥5,139,000 + ¥188,000) - (¥3,224,000 + ¥1,458,000) = ¥645,000

#### ③ 期末純資産(資本)

期首貸借対照表			期末貸借対照表		
現金・預金	586,000	買掛金	現金・預金	724,000	買掛金
売掛金	695,000		売掛金	x	
商 品	1,165,000	期首純資産	商 品	1,215,000	期末純資産

期首純資産 = 期首資産 - 期首負債

$$= (¥586,000 + ¥695,000 + ¥1,165,000) - ¥854,000 = ¥1,592,000$$

ここで、

$$\begin{aligned} \text{期末純資産} &= \text{期首純資産} + \text{資本追加元入高} - \text{資本引出高} + \text{当期純利益より} \\ &= \text{¥1,592,000} + \text{¥120,000} - \text{¥580,000} + \text{¥645,000} = \underline{\text{¥1,777,000}} \end{aligned}$$

④期末売掛金

$$\text{期末貸借対照表の貸方合計は} \text{¥786,000} + \text{¥1,770,000} = \text{¥2,563,000}$$

よって

$$\text{期末資産 } \text{¥724,000} + x + \text{¥1,215,000} = \text{¥2,563,000}$$

$$x = \underline{\text{¥624,000}}$$

### 第3問

解答用紙と問題文から、**現金出納帳、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳**を特殊仕訳帳として用いている。勘定科目のうち、現金、当座預金、売上、仕入に関しては、月末に合計転記するので、仕訳帳の元丁欄は「✓」を記入する。買掛金は仕入先(買掛金)元帳の丁数を記入する。支払手形の丁数は10である。

				(元丁)					(元丁)
6月10日	(借)	仕入	100,000	✓	(貸)	当座預金	40,000	✓	
						支払手形	60,000	10	
12日	(借)	買掛金	15,000	仕1	(貸)	仕入	15,000	✓	
15日	(借)	仕入	208,000	✓	(貸)	買掛金	200,000	仕2	
						現金	8,000	✓	
25日	(借)	買掛金	285,000	仕1	(貸)	当座預金	285,000	✓	

$$\text{当座預金の繰越金額は} \text{¥354,000} + \text{¥615,000} - \text{¥663,000} = \text{¥306,000}$$

### 第4問

1. 福島商店への売上

売上金額¥150,000 ⇒ 売上傳票

(借)	売掛金	150,000	(貸)	売上	150,000
-----	-----	---------	-----	----	---------

※5伝票制なので、売上傳票の金額はすべて売掛金となる。

代金のうち¥50,000は前受金 ⇒ 振替伝票

(借)	前受金	50,000	(貸)	売掛金	50,000
-----	-----	--------	-----	-----	--------

2. 宮城商店からの返品

返品処理も売上傳票を用いる。通常の売上と逆の仕訳になる。

(借)	売上	10,000	(貸)	売掛金	10,000
-----	----	--------	-----	-----	--------

3. 秋田商店からの仕入

仕入金額¥120,000 ⇒ 仕入伝票

(借)	仕入	120,000	(貸)	買掛金	120,000
-----	----	---------	-----	-----	---------

※5伝票制なので、仕入伝票の金額はすべて買掛金となる。

「仕入諸掛は仕入伝票には起票しない」とあるので、¥3,000は出金伝票を使う。

(借)	仕入	3,000	(貸)	現金	3,000
-----	----	-------	-----	----	-------

秋田商店への支払いについて山形商店の引き受けを得た。⇒ 振替伝票

(借)	買掛金	120,000	(貸)	支払手形	120,000
-----	-----	---------	-----	------	---------

## 第5問

### 未達事項

1.	(借) 買掛金	20,000	(貸) 本店	20,000
2.	(借) 支店	60,000	(貸) 売掛金	60,000
3.	(借) 仕入	77,000	(貸) 本店	77,000
4.	(借) 現金	63,000	(貸) 支店	63,000

支店		本店	
※620,000	63,000	617,000	※520,000
60,000	617,000		20,000
			77,000

※残高試算表より

以上より、本店勘定・支店勘定の一致する金額は¥617,000

また本支店合併後の買掛金の残高は

$$¥680,000 \text{ (本店分)} + ¥640,000 \text{ (支店分)} - ¥20,000 \text{ (未達分)} = \underline{¥1,300,000}$$

### 決算整理事項

#### 1. 売上原価の計算

支店の期末商品棚卸高は未達分を加えて  $¥145,000 + ¥77,000 = ¥222,000$

期首商品棚卸高は残高試算表より

$$\text{本店分} + \text{支店分} = ¥320,000 + ¥130,000 = ¥450,000$$

期末商品棚卸高は

$$\text{本店分} + \text{支店分} = ¥370,000 + ¥222,000 = ¥592,000$$

(借) 仕入	450,000	(貸) 繰越商品	450,000
繰越商品	592,000	仕入	592,000

#### 2. 貸倒引当金の計上

売掛金の残高は、残高試算表の本店、支店分の合計から未達事項の回収分を控除して

$$¥535,000 + ¥450,000 - ¥60,000 = ¥925,000$$

$$¥925,000 \times 4\% = ¥37,000$$

洗い替え法で処理するので、貸倒引当金残高（本店¥8,000＋支店¥3,000）¥11,000を戻入れた後に¥37,000を繰り入れる。

(借) 貸倒引当金	11,000	(貸) 貸倒引当金戻入	11,000
貸倒引当金繰入	37,000	貸倒引当金	37,000

#### 3. 減価償却費の計算

(本店備品)

取得価額は¥1,200,000、耐用年数5年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$¥1,200,000 / 5 \text{年} = ¥240,000$$

(借) 減価償却費	240,000	(貸) 備品減価償却累計額	240,000
-----------	---------	---------------	---------

(支店備品)

取得価額は¥800,000、耐用年数5年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

¥800,000 / 5年 = ¥160,000

(借) 減価償却費	160,000	(貸) 備品減価償却累計額	160,000
-----------	---------	---------------	---------

4. 消耗品費の処理 (本店・支店合計)

(借) 消耗品	39,000	(貸) 消耗品費	39,000
---------	--------	----------	--------

消耗品費は ¥188,000 + ¥153,000 - ¥39,000 = ¥302,000

5. 支払家賃の繰延べ (本店・支店合計)

(借) 前払家賃	140,000	(貸) 支払家賃	140,000
----------	---------	----------	---------

6. 支払利息の見越し (本店)

(借) 支払利息	8,000	(貸) 未払利息	8,000
----------	-------	----------	-------

7. 受取地代の繰延べ (本店)

(借) 受取地代	90,000	(貸) 前受地代	90,000
----------	--------	----------	--------